

とうきょうすくわくプログラム活動報告書【2025年度】

施設名	ミアヘルサ保育園ゆらりん荻窪
法人名	ミアヘルサ株式会社
法人所在地	東京都新宿区市谷仲之町 3-19

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音遊び

<テーマの設定理由>

音楽とは、音を楽しむこと。幼いころから音楽が身近にあり、保育者の手作り楽器で遊んでいた。玩具から楽器の興味へ広がり、音を鳴らしたり、曲の演奏を楽しんだりすることを期待して設定した。

2. 活動スケジュール

雨の日の室内活動の時間帯や、夕方の室内保育の時間。
子どもたちの様子を見ながら、主に自由遊びの時間帯に実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちの興味を深めていけるように、普段の自由遊びの設定の中に自然に配置する。
2歳児クラスでは以前から保育者の手作り楽器で遊んでいたため、本物の楽器を用意してみた。
本物の楽器にすぐに興味を示し、自主的に片づけを始めたため、一斉に楽器を渡して自由にならすことから始めた。
1歳児クラスはミュージックパッドを設定し、遊びの中のコーナーとした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

2歳児クラスは自由遊びの中に楽器のコーナーを設定する予定だったが、準備をしている間に子どもたちが興味を示し、遊んでた玩具を片づけたので、一斉に楽器での活動を行うことにした。
タンバリン、カスタネット、鈴を用意した。十分な数を用意して自由に選べるようにした。
1歳児クラスは、自由遊びのコーナーにミュージックパッドのコーナーを作った。興味を示した児だけで遊んだ。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

2 歳児クラスは優しく取り扱うことと、保育者が話しているときは鳴らさないことを約束してから始めた。初めは楽器の持ち方等は知らせず、とにかく自由に楽しく鳴らした。「こうやるといいんじゃない？」とタンバリンを床に置いてたたいたり、お尻を叩いて鳴らす児がいた。カスタネットは正しい持ち方ではないが、楽しむ事を重視し直すことはしなかった。

「アンパンマンの歌うたって」とのことで、保育者が歌うと各々思い思いに楽器を鳴らした。次から次へと曲のリクエストがあり、楽しんだ。保育者がリコーダーで曲を吹くと、歩きながら楽器を鳴らす児が出た。それに同調し、最後には全員が歩きながら合奏を楽しんだ。マイクを持って歌う児も現れた。その後も、雨の日などに子どもたちから「楽器やりたい」という声が出るようになった。

1 歳児クラスは、保育者が音階に並べたミュージックパッドの上を歩き音を出すと、興味を示す児がいた。体重が軽いので上に乗るだけでは音が出ないので、次第に弾んだ勢いで音を出せる児が出てきた。パッドの上で弾んだり、飛び移って音を出すことを楽しんだ。数回遊んで慣れてくると、友だち同士で同時に音を出して和音を楽しむ児も現れた。和音が出ると顔を見合わせて喜ぶ姿が見られた。

写真

手作りマイクで遊ぶ様子



手作り楽器で遊ぶ様子



鈴とタンバリン



タンバリンとカスタネット



ミュージックパッド



ミュージックパッド



5. 振り返り

0歳児の頃から音の出る玩具を好み玩具の楽器で遊んでいたが、本物の楽器に触れると興味関心意欲が増すことがわかった。幼児になれば、正しい持ち方やリズムに合った鳴らし方を求められるが、乳児のうちには自由に遊びとして行うことで、音楽に慣れ親しみ、音楽の楽しさを体感することができると感じた。行事の「発表会」で幼児クラスが合奏をする姿を見て、自分たちも大きくなれば楽器をたくさん使って合奏ができるようになる、という意欲にもつながったように思う。保育者はほとんどが見守りするだけで子どもたちの自由な発想が生まれ、自分たちで楽しんでいた。合奏の中には笑い声も重なり、楽しさが倍増していった。